

⑬主要地方道 豊岡竹野線 城崎大橋架替事業

受賞機関 兵庫県 但馬県民局 豊岡土木事務所

キーワード 新たなゲートウェイ、安全・安心、
観光周遊性の向上、スポーツ振興の促進

全建賞審査委員会の評価ポイント

県内屈指の観光地域である城崎温泉の玄関口にふさわしい景観に配慮したデザインを採用するとともに、コウノトリが生息する湿地帯に近接して架橋するに当たり、環境調査を実施し、道路排水を直接放流せず、油水分離装置を経由させる構造の採用等、自然環境の保全に配慮しながら大規模な橋梁架替事業を完成させた点が評価された。

1. はじめに

県道豊岡竹野線は、兵庫県北部を東西に結び、県内屈指の観光地である城崎温泉へのアクセスを担う重要路線である。このうち、豊岡市北部にあり、一級河川円山川を渡る旧「城崎大橋」は、昭和31年の架橋から70年近くが経過し、老朽化が著しかった。さらに、幅員4.5mという狭小な道路であり、10tの重量制限による大型車の通行制限に加え、基準径間長や桁下高の不足により、洪水時の流下能力を阻害するおそれがあるなど、河川管理上の課題も抱えていた。これら多岐にわたる課題を抜本的に解決するため、平成17年度に旧橋の約1km下流で橋梁架替事業に着手した。令和7年5月31日には新橋の供用を開始し、旧橋の撤去完了は令和10年度末を予定している。

2. 事業の概要

本事業は、県道豊岡竹野線の安全・安心の向上と地域活性化を目的とした、大規模な橋梁架替及び周辺道路の整備事業である。新橋は城崎温泉の玄関口にふさわしい景観デザインとし、橋長562mのPC6径間連続箱桁橋であり、経済性等を考慮した張り出し架設工法により架設した。また、ラムサール条約湿地「ハチゴロウの戸島湿地」に近接するため、環境調査小委員会を設置して環境に配慮した施工内容を検討するとともに、橋上の路面排水を橋梁端部まで導水し、油水分離装置を経て円山川へ排水する構造等を導入した。



城崎大橋全景（円山川左岸よりドローン撮影）

3. 事業の成果

本事業の完成により、幅員狭小や重量制限が解消されて大型車の通行が可能となり、円山川を横断する交通の利便性が飛躍的に向上した。これにより、観光地である「城崎温泉街」と「玄武洞」を結ぶ新たなルートが形成され、大型観光バスの移動距離が従来の15kmから6kmへと9km短縮された。また、開通翌日から新たな路線バスの運行開始等により、観光周遊性が大幅に向上した。さらに、現在整備中の山陰近畿自動車道城崎道路の（仮称）城崎温泉ICと直結することで、関西圏からのアクセス向上にもつながる。

河川管理面では、老朽化した旧橋の撤去により円山川の流下能力が向上し、治水安全度が高まることが見込まれる。また、円山川は河床勾配が緩やかであるという地形的特徴から、かねてよりローイング（ボート）競技の会場として利用されており、旧橋の撤去に伴い、直線2,000mのコース設定が可能となるため、国内有数の競技環境が整い、幅広いスポーツ振興への寄与が期待される。

4. おわりに

令和7年5月31日、開通記念式典が盛大に開催され、城崎大橋は新たな歩みを始めた。本事業によって誕生した新橋は、城崎温泉への新たなゲートウェイにふさわしいシンボリックなランドマークとなり、兵庫県北部地域における強靱なインフラとして安全・安心を支えていく。今後も周辺の道路整備と併せ、本橋が地域の周遊性を高め、観光振興の核となり、更なる地域社会の活性化と持続的な発展に大きく貢献することが期待される。



城崎大橋開通式（令和7年5月31日）